

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Take manure gases seriously

米国

堆肥ガスに用心



米国では冬から春にかけて、多くの農家が展示会や実演会に参加するための時間をつくる。最新の大型トラクタを見て回る以上にも学ぶところが多くあるからだ。

ペンシルバニア州ヨークのヨークフェアグラウンドではキース・トーン・ファームショーが毎年開催されている。今年はその場で、ペンシルバニア州立大学の農業関連の安全専門家であるデニス・マーフィー博士が講演し、堆肥を貯蔵する閉鎖スペースで作業を行なう際の注意を喚起した。

8年間におよぶ研究後に設定された基準は、2010年10月の米国農業工学会（ASABE）にて「リスク回避のための堆肥貯蔵場所の換気」というテーマで初めて発表された。マーフィー博士によれば、基準を策定した目的は「閉ざされた堆肥貯蔵場所に入る際に、陽圧状態や強制的な換気要件を明確にすることで、窒息、被毒、爆発といった危険を事前に回避することだ」という。博士は予防策をいくつか紹介している。その一つは貯蔵場所に入る前から中に入っている間、ガス検知機器を持ち歩くことだ。さらに、作業は他の作業員と組になって行ない、相方の同僚に安全性を監視してもらうよう勧めている。

「閉ざされた堆肥貯蔵場所に入るときは、対処できない場合が多い。堆肥から発生するガスは無色なうえ、臭いがなく、臭いがないこともある。それでは農場で発生する他の臭いにかき消されてしまうので、我々の臭覚と視覚は役に立たない」とマーフィー博士は話す。



ペンシルバニア州立大学、農場安全性専門家デニス・マーフィー博士。堆肥から発生するガスがいかに有害で致命的であるのか、そしてなぜ農家は堆肥貯蔵場所に入る際に、予防策を講じるべきなのかを明らかにしている。

Wheels under the workshop

オランダ

ホイール付きの作業場



オランダ、ゼーヴォルデの農家ヘンク・ホリング氏は、近隣農家ポール・ヴァンエルダレン氏と密接な協力関係を保っている。ホリング氏は120ha、ヴァンエルダレン氏は180haの圃場をそれぞれ所有している。

2人はさらに150haの圃場を共同で借りている。しかし、その大半が農場の作業場から遠く離れており、例えばトラクタの一部に何らかの不具合が生じた場合、修理のためにわざわざ戻って来るのは難しい。特に忙しい収穫期は、多くの作業時間を無駄にすることになってしまうだろう。地元の販売店に連絡すれば良いのだが、ホリング氏もエルダレン氏もほとんどの修理やメンテナンスを自分たちで行なう方法を選んだ。ではどのような解決法があるのか。

小型の可動式作業場をつくることだ。大きな木箱には、使用頻度の高い工具と一緒に小型ディーゼル発電機、溶接機、グラインダ、ドリルなどが所狭しと詰め込まれている。しかし、この作業場の一番の利点は、フォークリフトを使えば、ものの数秒でピックアップの荷台に載せることができることだ。したがって、修理の必要があれば直ちに駆けつけることができる。ホリング氏によれば無駄な中断時間がすでに大幅に減ったという。



このモバイル作業場には付加的な利点が数多くある。電子レンジも使えるようになったため、圃場でお腹を空かせた作業員たちにも便利だ。



Better proof of second-hand kit ownership in Oz オーストラリア

中古農機の所有権情報



中古農機を購入する前に、その機械が融資を受けるための担保に使われていないかどうか確認することが可能になった。こう話すのは豪州法律事務所のスレーター・アンド・ゴードンだ。これは、

連邦政府の発表によれば、個人財産の保全にあたり、担保財産を公的登録することが制度化されることになったためだ。

同事務所、地域・農村問題担当のデビッド・エイトキン氏によれば、この登録簿により農家は購入を検討している中古の機械や農機具、車両、その他器具が融資の担保として使われていないことを確認することができるようになるという。

エイトキン氏は「これは中古品を購入しようとしている多くの農家がまさに関心を寄せていることだ。その販売品が銀行からの融資を受けるために担保として使われたのであれば、売り手の完全な所有物ではない」と説明する。続けて「この登録簿には農業機械やその他農業関連の所有物が含まれ、それらが抵当に入っているのかを確認することができるようになる。ちょうど、中古車の購入者がそうしているように」と加えた。

新登録簿には不動産は含まれないが、個人財産を管理するための連邦や州、地域の70を超える法令による既存の登録簿に取って代わるものだ。

エイトキン氏によれば、個人財産の担保権というのは、個人や法人が融資のために個人財産を抵当に入れると発生するという。例えば、買い手がトラクタの代金を支払うと同時に、銀行や融資会社がそのトラクタにかけられた担保権を握ることになる。トラクタ自体が担保であるため、買い手が債務不履行に陥ると、融資者は関連コストと合わせて、融資額の回収のためにトラクタを差し押さえることができる。



中古農機を購入を検討している農家は、現在、新たな登録簿の導入により、その所有権の詳細情報を得ることができる。

Customised tractor aids African farming 南アフリカ共和国

カスタマイズトラクタがアフリカ農業を救う



昨年のアグリテクニカにてバルトラ社の展示スタンドに立ち寄った人々は、ユニークなトラクタの製作を手伝い、同時にアフリカの農業学校への資金援助に寄与することになった。

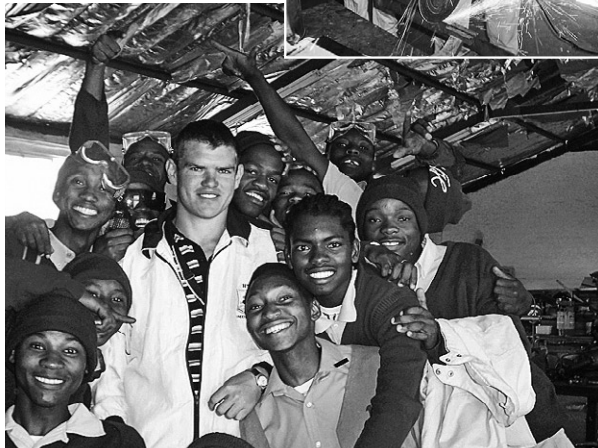
このフィンランド系企業のイベント参加者は、たくさんの色を使って同社トラクタの車体や車輪に手形をつけたり、その横に名前を書き込んだりした。言うまでもないが、展示会の終わりまでに、そのトラクタは大変カラフルになった。

展示会後、トラクタはオークションにかけられ、その代金は正当な手続きを経て、南アフリカのウェイベルド農業学校の支援に充てられた。これにより600名の若者が農業技術、ホテル・レストラン経営、データ処理を学ぶ機会を得た。バルトラ社も農業機械の専門知識の構築や作業訓練の支援のために、技術訓練用の工具や材料のほか、A93トラクタを学校に提供している。

フリーステイト北部のバリスにある輸入会社バルトラック社とともに、バルトラ社は農場や販売ディーラーで働く機械工の育成を目指している。



真の情熱を見せるウェイベルド農業学校の生徒たち。この学校では、あらゆる農業技術を学べる。





Class expands in North America

米国

北米で拡大するクラス



米国経済が全体的に停滞するなか、農場レベルでもアグリビジネスレベルでも、農業は順調な事業として話題を提供し続けている。その良い例が米国クラス社だ。

「当社はここ数年で大幅成長を遂げており、今後も同様の成長が見込まれている。販売店に最大限の支援を行ない、北米農家に革新的な商品を提供するために会社が組織されているよう、我々は経営陣を増員した」と話すのは同社社長のリーフ・マグヌソン氏。

会社の成長をより効果的に管理するために、同社では人材と資力を北米事業に注いでいる。このプロセスの一環として、経営陣の上層部を増やした。例えば、米国クラス社のマーク・オムケ氏は、販売・マーケティング・販売店開発担当部長から販売担当役員に昇格した。彼はかつてCNH社の建設・農業・政府担当の販売上級職に就いていた人物だ。

同社はさらに、北米の販売店や商品を購入する農家へのサポートを向上させるため、サービス部門の再編成を行なっている。



米国クラス社は多種の干草用の農機具やペーラ、自走式飼料ハーベスタ、コンバインハーベスタを北米農家に販売している。2011年の売上は前年比33.5%増となり、北米事業の拡大に弾みがついた。

Six wheels for RTV wagon

オランダ

6車輪式のRTVワゴン



オランダ人農家ピーター・ストリューク氏は、自身が所有するクボタのRTVを6×4と呼ぶ。「小型ピックアップ」は6つの車輪の上に乗り、そのうちの4つが駆動輪になっている。6つの車輪のうち4つが操縦できるので、正確には6×4×4といったところだ。

3番目の車輪によりRTVの積載量は750kgから2tへ引き上げられただけではなく、前車軸のステアリングに結びつくので操作しやすく、芝地のような不安定な表面でもすり減りが少ない。さらに、3番目の車輪は独立してぶら下がっているため、凹凸のある表面でも真ん中の車軸が地面から持ち上がってしまうリスクはない。

ケルクウエイク村を拠点に、ストリューク氏は小型トラクタと庭用機の販売を行なっている。また、SCK (Streek Constructie en Service) の名の下、約2万8000ユーロの値を付ける6車輪式RTVプロジェクトを進めている。



車軸を追加するとRTVの積載量は750kgから2tに。